CDEJ のための
情報アップデート

Key words 患者様中心の良質な医療，専門性を活かした連携プレー，チーム力の糖尿病教室

専門性を活かした連携プレー（CDEJ）“チームで行う糖尿病教室”

市立奈良病院　糖尿病ワーキンググループ　管理栄養士　**野坂雄治**

患者様中心の良質な医療！　市民から愛され，信頼される病院！　この2つが，平成 16 年 12 月 1 日に誕生し，もうすぐ 10 年を迎える私たち「市立奈良病院」の掲げる理念です．従来は国立病院機構奈良病院であったものが，奈良市に移譲され，地域の基幹病院へ生まれ変わりました．それに伴いチーム医療がより重視されることになり，私たちコメディカルも，患者教育に積極的に乗り出し，糖尿病教室，肝臓病教室，脳卒中教室，母親教室などを多職種で運営しております．当初は，教室へもっと多くの人がより積極的に参加してもらえるように，受講者カードを作成し，すべての糖尿病教室に出席した参加者に対して「受講修了証」を渡していました．この受講者カードは，モチベーションを高めるうえで有効であり，参加者からも好評を得ていましたが，参加者の増加には結びつきませんでした．そこで，平成 19 年 5 月よりリニューアルし，現在の体制で運営しています．

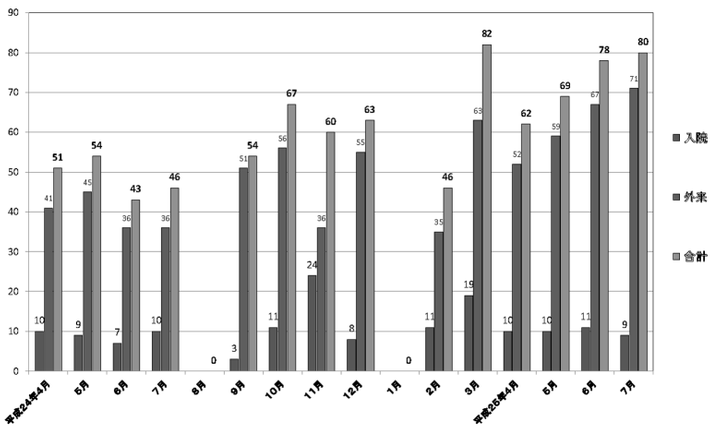
［教室の運営］ 糖尿病教室は，毎月2回実施しています．10回で1クールの構成で，毎月1回目は，医師と糖尿病療養指導士（CDEJ）の資格を持った看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療養士，管理栄養士のうち3職種が担当し，2回目は管理栄養士が担当します．毎回の参加者は 30 ～ 40 名いて，熱気に溢れています．入院患者が 18%，外来患者が 82%を占め，外来中心の教室となっているのが特徴です．このことは，糖尿病教育入院を経て，外来通院され継続して真面目に教室を受講していること，修了しても必要であれば自主的に受講する方がいるからです．

［教室の特徴］ 机の配置を講義形式からグループワーク形式の1テーブル6～8人掛けに変えました．席に着けば自己紹介からはじまり，講義の中にはクイズ形式を取り入れ，グループでの討議や質問や意見交換ができるように工夫しています．また，講義担当者は，同じことを繰り返すのでなく，新しい情報を発信できる場にもしています．従来の一方的な講義形式から患者様参加型の形式に変え，患者様がすすんで医療者側と対話できる場，患者様同士の交流ができ，病気に対する不安や孤独感を解消する場になっています．

［専門医過疎県での CDEJ のかかわり］ 奈良県は糖尿病専門医の少ない県です．2012 年の集計では，専門医数でワースト3，人口当たりではワースト1だそうです．奈良市内にも病院勤務している専門医は当院に1名しかおらず，日本糖尿病学会認定教育施設も奈良市内では当院のみです．このため多くの患者様が地域から当院に紹介されて来ます．1人の専門医では到底対応できず，CDEJ の存在意義は大きなものがあります．このため CDEJ は，管理栄養士にかかわらず，すべての職種において各専門領域を任され，責任感をもって療養指導にあたっています．このことが，患者様の信頼を得ている大きな原因だと考えています．

［おわりに］ 専門性を活かした多職種による糖尿病教室と，その後の継続する個人指導が，両輪となって将来の療養に大きく影響して来ます．テレビやインターネットなど直ぐに情報が入る中で，今必要とされているのは，人から人へ，すなわち人からの療養に関する情報だと思います．複数の医療者側・患者様同士との双方向性のある印象に残る情報伝達方法（教育方法）が大切です．今後も，患者様の療養生活が少しでも明るく充実したものになるように，改善を積み重ねながら教室を開催していきたいと思っています．

糖尿病教室　月別受講患者数　毎回参加者は 30 ～ 40 名



患者様参加型 糖尿病教室の様子

CDEJ_41.indd 8　2013/12/20 16:52